

自主防災組織やボランティアに期待されること

阪神・淡路大震災では、大規模災害時の初動対応における自主防災組織やボランティアの役割の重要性が指摘されました。こうした自主的な防災活動は、国民保護においても、住民の避難や被災者の救助などの局面において十分活かされるものです。

このような国民の協力は、国民の自発的な意思に委ねられるものであり、また、その活動に当っては、安全の確保が十分に配慮されなければなりません。

自主防災組織やボランティア等による国民の協力には、次のものがあります。

- ① 住民の避難や被災者の救援の援助
- ② 消火活動、負傷者の搬送または被災者の救助の援助
- ③ 保健衛生の確保の援助
- ④ 避難に関する訓練への参加

○避難住民の誘導への協力

避難用バスへの誘導など



○救援への協力

避難所での救援物資の配布や炊き出しなど



○消火、負傷者の搬送、被災者の救助への協力

負傷者の搬送、応急手当など



○保健衛生の確保への協力

健康相談所の開設支援など



自然災害への備えが役立ちます

地震などの災害に対する日頃からの備えとして、避難しなければならないときに持ち出す非常持ち出し品や、数日間を自足できるようにするための備蓄品が国・県・市町等により紹介されていますが、これらの備えは、武力攻撃やテロなどが発生し避難をしなければならないなどの場合においても大いに役立つものと考えられます。家族全員で備えましょう。

数日間を自足できるようにするための備蓄品（3日分が目安）

普段使っている物と同じ物を用意しておくとう便利です。下の例は1人あたり3日分の目安です。

- 飲料水 9リットル（3リットル×3日分）
- ご飯（アルファ米*） 4～5食分
- ビスケット 1～2箱
- 板チョコ 2～3枚
- 缶詰 2～3缶
- 下着 2～3組
- 衣類 スウェット上下、セーター、フリースなど



*アルファ米…一度炊いた米を乾燥させたもので、お湯や水を注ぐだけで食べられ、非常食としても活用できる。